



協会webサイト

- 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- 核兵器禁止条約フォーラム 初開催
- 朗読と音楽「ナガサキの郵便配達」
- ICUサービス・ラーニング受け入れ
- 市内の中学生が参加 平和学習発表会
- 音楽部会員も出演 長崎平和音楽祭
- 平和ネットワーク構築プログラム
- 平和の文化キャンペーンお知らせ
- 原爆写真展と映画上映会 初同時開催
- 全国から参加 青少年ピースフォーラム
- 県外原爆・平和展 北九州市など3か所
- 国際平和シンポ「核兵器廃絶への道」
- ながさき平和大集会 秋月賞表彰式
- 写真資料調査部会 培われた分析能力①
- TOPICS(追悼平和祈念館 企画展など)



全国の自治体から派遣された平和使節団が集結した青少年ピースフォーラム(詳細は4ページ)

被爆79周年 長崎原爆犠牲者慰霊

平和祈念式典

被爆者代表・三瀬清一朗さんが「平和への誓い」



8月9日、被爆79周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が平和公園で開かれました。昨年は台風接近に伴い屋内での縮小開催でしたが、2年ぶりに屋外での開催となり岸田首相をはじめ約2,300人が参列しました。

午前11時2分、黙とうを捧げ犠牲者を追悼したあと、鈴木市長は平和宣言の中で「核保有国と核の傘の下にいる国の指導者」に向け「核兵器が存在するが故に人類への脅威が一段と高まっている現実を直視し、核兵器廃絶に向け大きく舵を切るべきだ」と訴えました。

被爆者を代表して「平和への誓い」を述べた三瀬清一朗さん（長崎平和推進協会継承部会員）は、通っていた国民学校が「男女の区別もつかないほど血だらけの人や、上半身裸で傷を負った人」で溢れ「自分の学校が死



体処理場が変わった光景は今でも忘れられない」と振り返りました。そして岸田首相に対し「被爆国日本こそが、核廃絶を世界中の最重要課題として、真摯に向き合うことを願ってやまない」と核兵器廃絶に向け、主導的な役割を果たすよう求めました。

今年の式典では長崎市が、イスラム組織ハマスと戦闘を続けるイスラエルの駐日大使を招待しなかったことから、欧米6か国の駐日大使らが参加を見合わせる事態となりました。

イスラエルを招待しなかった理由について鈴木市長は「政治的な理由ではなく、平穩かつ厳粛な雰囲気のもとで式典を円滑に実施したいから」と説明しています。

式典では、この1年間に亡くなられた被爆者ら3,200人の名前が記された「原爆死没者名簿」が新たに奉安されました。これで名簿登載者数は19万8,785人となりました。



写真提供:長崎市



核兵器禁止条約フォーラム 初開催

日本の条約参加 実現への課題を考える



8月9日の長崎原爆の日、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館では、2021年3月に発効した世界の約半数の国々が署名している「核兵器禁止条約」にどうやったら日本が参加するのか、実現への課題を考えるフォーラムが開かれました。

条約に署名・批准しない理由として、日本政府は「核兵器国が1か国も入っていない」「日本を取り巻く安全保障環境が厳しい」「アメリカの核抑止力に依存する日本の安全保障政策と合致しない」などとしています。

会議の冒頭、主催者である「核兵器をなくす日本キャンペーン」の川崎哲さん（ICAN国際運営委員）は「日本が加わることで核兵器国に参加を促し、非核兵器国との橋渡しができる」「核戦争の防止や核廃絶の検証体制の強化で安全保障に資する」などと指摘しました。

このあと専門家らによるパネルディスカッションが行われ、法的・政治的・政策的な視点から意見を出し合いました。このフォーラムは今回初めて開かれたもので、今後は毎年定期的開催される予定です。



原爆写真展&映画上映会 初のコラボ企画

小学生含む約1,500人来場

これまで国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が行ってきた映画上映会と、当協会の写真資料調査部会が開いてきた原爆写真展を、今年初めて同会場・同期間で連携して開催しました。映画上映会は夏休みにあわせアニメ映画を選定、7月22日～8月2日の会期中、『チョッチャん物語』『ぞう列車がやってきた』の2本を交互に上映しました。

一方「被爆79年ナガサキ原爆写真展」では、子ども向けに写真を選定し、写真の説明文に読みがなを付けるなど子どもにも分かりやすいよう趣向を凝らして展示しました。



映画上映会

には連日、学童保育の子ども達がたくさん訪れ、映画を見たあと周囲に展示してある原爆被災写真を見学。別の企画で募集した



「原爆写真展ユースボランティア」の小学生らが、写真についての説明を行うという初めての取り組みも実施しました。学童保育の子ども達にとつてユースボランティアは年齢も近く話がしやすいかたようで、写真についてたくさん質問がありました。

原爆写真展&映画上映会のコラボ企画には、10日間の会期中に、学童保育の小学生522人と一般の見学者970人、あわせて約1,500人が会場を訪れました。これまでの映画上映会の参加者を大きく上回っており、今後の展開にとって大きな参考となりました。

今年も上演

「ナガサキの郵便配達」

とわ
アンダー
永遠の会 U-25の若者が朗読

郵便配達中に被爆し背中に大火傷を負った谷口稜嘩さんの被爆体験を基に、元イギリス空軍大佐でジャーナリストだったピーター・タウンゼントさんが書いた「ナガサキの郵便配達」の朗読と、本を基にクラシックギターリストの佐藤洋平さんが作曲した「ナガサキの郵便配達 組曲」の演奏を通して平和への想いを届ける「ナガサキの郵便配達 朗読と音楽で紡ぐ平和への想い」を8月24日、原爆資料館ホールで開催しました。

3度目の上演となる今回は、佐藤さんがこの日のために作曲したギターソロ「折り鶴」をオープニングで披露。曲のコンセプトについて佐藤さんは「折り鶴を作るとき私たちは23回紙を折っている。平和への祈りを込めて鶴を折るように、曲の中にも23回の祈りを込めた」と話されました。

第2部では、長崎県音楽連盟のメンバーによる弦楽器・ピアノとクラシックギターによるアンサンブルが、時には激しく、時には優しく組曲を演奏。被爆体験を語り継ぐ活動を続けている「永遠の会」U-25に所属する学生4人が朗読しました。原爆投下に至る歴史の流れ、被爆前後の谷口稜嘩さんの体験などを落ち着いた口調で語ると、会場を埋めた約150人の聴衆は音楽と朗読のコラボレーションに聴き入っていました。



300人超す参加は5年ぶり 青少年ピースフォーラム

8月8日～9日、青少年ピースフォーラムを開催しました。

被爆の実相や平和の尊さを長崎で学ぶイベントで、今年は全国の自治体とポルトガル・ポルト市から青少年約380人が参加しました。昨年は台風接近のため1日目のみの開催となり、半分以上の自治体が参加を中止しましたが、今年は晴天に恵まれた2日間となり、予定どおり開催することができました。

1日目は松尾幸子さんの被爆体験講話を聴講後、コースに分かれての学習を行いました。

Aコースは原爆についての基礎的な学習や戦時中の疑似体験の他、原爆落下中心地周辺を見学。Bコースは平和公園・浦上天主堂・山王神社の3ルートに分かれて、被爆建造物等を巡りました。少しずつ制限が増えたり空襲警報が鳴ったりする生活を疑似体験したり、被爆した痕跡が残る建物などを見学することで、79年前の遠い出来事ではなく、戦争が起きたら・原爆が投下されたらこうなる、と身近に考えることができました。

2日目、午前中は式典に参列し、午後は班に分かれて「なぜケンカ・戦争が起こるのか。起こさないためにはどうしたらいいか」をテーマに意見交換を実施し、様々な意見があることや話し合いの重要性などを感じました。参加者からは「同じ意見がないことが実感できた」「話し合いだと思っていたと争いになると感じた」などの感想が聞かれました。

約90人の青少年ピースボランティアが内容を企画し、2日間のガイドや進行役なども全て担いました。

(青少年ピースフォーラムは、長崎市からの受託事業です)



サービス・ラーニング受け入れ 国際基督教大学(ICU)の学生2人

国際基督教大学の教育プログラム「サービス・ラーニング」実習のため7月12日から8月10日まで当協会に齋木理世さんと吉田帆菜さんが派遣されました。

長崎原爆資料館や被爆遺構巡り、被爆体験の聴講などを通して原爆被爆の実相を学ぶとともに、長崎大学RECNAの講義受講や平和問題のシンポジウムへの参加などを通して核兵器の問題について学びました。また、被爆地長崎から平和の大切さを伝える若者で構成される青少年ピースボランティアとともに活動し、全国の自治体から派遣される平和使節団が参加する青少年ピースフォーラムの運営に携わりました。

今年の夏は毎日とても暑かったですが、およそ1カ月の間、いろいろな講座やイベントに参加し、2人にとって平和とは何か、また原爆被爆の継承の在り方などを学ぶいい機会になったことと思います。



(左から) 齋木さん、鈴木市長、吉田さん

浦安市・北九州市・久山町で 「県外原爆・平和展」

7月から10月にかけて、3つの自治体で「県外原爆・平和展」を開催しました。各会場には、長崎原爆資料館所蔵の被災資料や写真パネルなど数十点を展示しました。また、写真資料調査部会員による展示解説や、継承部会員による被爆体験講話会も開催しました。

最初にスタートした浦安市では、被爆資料や写真パネルだけではなく、被爆瓦のタッチコーナーや図書閲覧コーナー・被爆者証言映像の上映コーナー等も設置しました。また、「浦安被爆者つくしの会」の皆様のご助力により、被爆当時の様子を知る方々の説明を聞く機会も設けられました。

北九州市では、平和のまちミュージアムで「8月9日を忘れるな!」と題した企画展を開催しました。長崎・北九州両市が所蔵する資料をあわせて展示することで、長崎原爆の実相のみならず、北九州において長崎原爆がどのように語られてきたのかを明らかにする展示となりました。

久山町では、文化交流センターや図書館・ホールなどを備えた複合施設を会場とし、地域の子も達が毎日のように訪れるロビーでの展示となりました。被爆体験講話では、とても真剣に耳を傾けていただきました。また講話者には展示していた写真の解説も行っていただきました。

来場者からは、「今回の展示を見て長崎にも足を運んでみたいと思った」、「子のためにも、平和に生きるために何ができるのか、どんな物事の捉え方をしたら良いか考えるきっかけとなった」という声をいただきました。

(県外原爆・平和展は、長崎市からの受託事業です)

開催場所	会期	会場
千葉県浦安市	7/18～9/1	浦安市役所1階 市民ホール
福岡県北九州市	7/27～10/6	平和のまちミュージアムほか
福岡県糟屋郡久山町	8/3～8/25	レスポアール久山



被爆者リモート講話(浦安市)



被爆資料の展示(北九州市)



原爆被災写真の解説(北九州市)



被爆体験講話(久山町)

中学生による平和学習発表会

8月23日、「平和学習発表会」を開催しました。この発表会は平成18年度から実施されていて、長崎市内の中学生が一堂に会し、日頃取り組んでいる平和学習の成果などの発表をとおして、各学校における生徒の平和への取り組みを発展させる機会となっています。

今年は市内の中学校28校から79人の生徒が参加し、各学校での平和への取り組みについて発表し、他校の発表を聞いての感想や意見を交わしました。また、青少年ピースボランティアから高校生になったらできる平和活動について発表がありました。

参加者からは「他校の平和学習の取り組みを知ることができて、自分の学校ではやらなかった活動を知れたから、平和のことを色々な方法で伝えていけることができるとわかった」「それぞれの学校の特徴が強くて表れていたが、平和が大切だという根本的の考えが同じで、これからの学習の参考や考えの一つになった。参加できて良かった」などの感想が寄せられました。(平和学習発表会は、長崎市からの受託事業です)



城臺さんらに秋月平和賞 ながさき平和大集会



写真提供:長崎新聞社

核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会が主催する第34回「ながさき平和大集会」が7月15日、原爆資料館ホールで開かれ約110人が参加しました。

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）の鈴木達治郎教授が「核軍拡時代に抗う、被爆地からの提言」と題して講演、厳しい安全保障環境の中だからこそ被爆地の声が必要ですと重要になっていると訴えたほか、高校生平和大使からの活動報告などがありました。

また、長年平和活動に尽力したとして今年の秋月平和賞に選ばれた城臺美彌子さん（平和推進協会継承部会員）と横山照子さんに表彰状が贈られました。

国際平和シンポジウム2024 核兵器廃絶への道



1995年から続く「国際平和シンポジウム」、30回目の今年は7月27日に原爆資料館ホールで開かれました。

米国NGO「核時代平和財団」代表のイヴァナ・ヒューズさんは基調講演で「今年はアメリカが太平洋のピキニ環礁で、長崎原爆の700倍の威力がある水爆実験を行うから70年。しかし今でもウクライナやパレスチナ・ガザ地区で戦争が行われていて、核保有国が関与している」と指摘したうえで「核兵器の廃絶は可能。日本もアメリカも核兵器禁止条約に加盟し履行する責任がある」と訴えました。

このほか、鎮西学院の姜尚中学院長による講演や、被爆者三田村静子さんによる原爆紙芝居の上演などが行われました。

海外原爆展でのガイド研修も 平和ネットワーク構築プログラム



追悼平和祈念館では8月18日から22日まで「若者による平和ネットワーク構築プログラム」を実施しました。今回は初めての試みとして、海外原爆展を昨年度実施したジョージアと本年度実施するカザフスタン共和国から6人を招き「ガイド研修」として実施しました。

長崎大学の高村昇教授による原爆後障害の講義、原爆資料館見学や追悼碑めぐり、三瀬清一朗さんによる被爆体験講話、林田光弘さんによる長崎の若者との交流会、松田斉写真資料調査部会長による原爆写真の研修を経て、最終日に研修成果発表会を行い、被爆の実相や平和の尊さを母国で発信したいとの思いを語られました。

音楽部会員も出演 長崎平和音楽祭



39回目となる「長崎平和音楽祭」が8月3日、原爆資料館ホールで開かれました。今年のテーマはウクライナや中東などの世界情勢を受け「世界に広がる被災地へ、いまだ終わらない戦地へ、音楽のエールを高らかに」。

プログラムは3部構成で、「邦楽の調べにのせて」「愛と平和の詩(母の声&父の声)」「平和を祈る美しい歌声」と題して、民謡や朗読、合唱、合奏などが披露されました。

音楽を通じていのちの尊さや平和を訴えようと開かれているこの音楽祭、国や言語・文化の壁を越え、人々の心をつなぐことができることを改めて感じさせました。

写真資料調査部会 培われた分析能力① 推理小説を読んでいるかのような展開に…

それは、わずか2時間ほどの出来事だった。6月23日、2人のアメリカ人女性が古いアルバムを携え原爆資料館を訪れたところから始まった。ワシントンDC在住のヴィクトリア・ケリーさん(40)とカリン・タナベさん(43)。写真は、終戦時アメリカ海兵隊に所属していたケリーさんの祖父が撮ったもので「1945年9月23日に長崎に上陸したと聞いた」「写真に写っている当時の長崎のことを教えてほしい」との要望だった。

2人は、当協会の「写真資料調査部会」の例会の場に案内された。松田部長らメンバーがアルバムを開くと、5センチ×5センチ程度の小さな写真が100枚以上貼られていた。「どうやって調べるのだろうか?」私はその手法に関心があった。アルバムの中には、ヤシの木など南国風の写真も多数あった。メンバーからは「岩山の形が以前訪れたサイパン島にそっくり」「小さい字でSECOND MARINE DEVISIONと書いてある」などの声が聞かれた。確かに第2海兵師団は長崎上陸以前、サイパンに駐留していたのは史実だ。戦争に関する豊富な知識を持つ部会員らは、写真から見て取れる情報を基に場所を絞り込み、「Google Earth」などを駆使して写真が撮られた地点を次々と推定していった。

日頃から「原爆被災写真」が長崎市内のどの場所で撮られたのか分析している写真資料調査部会、背景にある山の稜線や建物の看板などちょっとした写り込みを手掛かりに撮影場所を特定する技術が、今回まさに生かされた格好だ。果たしてアルバムの中に、これまで知られていない「新たな原爆被災写真」があるのか…。(次号につづく)



ケリーさんのアルバムを調べる
写真資料調査部会のメンバー



サイパン島で撮影されたとみられる写真



「平和の文化キャンペーン」イベントのお知らせ

スポーツや芸術など様々な分野を入口に平和を考えるきっかけにしておうと長崎市では9~11月の「平和の文化」月を「平和の文化キャンペーン」期間としています。当協会が開催する関連イベントです。

イベント名	日時	会場
ラウンジコンサート [Music Garden Pray&Play]	10月12日(土)、11月16日(土) 14:00~14:45	追悼平和祈念館 交流ラウンジ
国連軍縮週間「市民のつどい」	10月26日(土) 10:00~13:00	原爆資料館前 階段下広場
森田孝子書道展 「平和への願いを書に託して」	11月2日(土)~11月7日(木) 10:00~17:00	追悼平和祈念館 交流ラウンジ
「国際交流のつどい」	11月9日(土) 10:00~11:30	追悼平和祈念館 交流ラウンジ

No. 30

渡邊 紗羽

2年
長崎県立大学



今後は、U・25の人数も増えてきているので、イベントができたらいよいよという大きな夢を持ちながら、永遠の会の活動に積極的に参加し、自分自身の知識や認識を高めると共に活動を続けていきます。

被爆体験記の朗読により被爆の実相を伝えると共に、平和への思いを伝え、聞いてくださっている方に平和について考えてもらえるきっかけになる活動だと思っています。

主な活動としては、毎月9日の「9日を忘れない」や、その他イベントなどの司会や朗読を行っています。さらに、永遠の会の活動に学校などへの派遣があり、私も小学校の授業で朗読の指導に参加させていただく機会もありました。



Peace Wing Nagasaki
会員の広場

私は「被爆体験を語り継ぐ永遠の会」のU・25として活動をしています。私は高校生の頃に放送部に所属していて、卒業する際に生かせる場を考えていたところ、募集が始まったことで入会しました。また、小学校の頃からの平和学習を通して、被爆の歴史や関連する活動に興味をもっていたこともあり、私に合っていると思いました。

TOPICS! へいわトピックス

外国人による日本語弁論大会 一般来場者募集

長崎県に住む外国人が「外国人から見た日本・平和・国際交流」をテーマに、日本語でスピーチを行います。外国人から見た日本や地域社会について知り、国際理解をさらに深めてみませんか？



日時:10月19日(土) 13:30～
場所:追悼平和祈念館 交流ラウンジ
※入場無料、事前申し込み不要

二重被爆した姉弟の記憶をたどる

第14回体験企画画展「幼い姉弟が見た広島・長崎」は、福井絹代さん(青森県在住)と、弟の相川國義さん(故人)が、広島・長崎で二度も目の当たりにした想像を絶する被爆の惨状、幼い姉弟が味わった苦悩、平和への思いを伝えます。



弟・相川國義さん 姉・福井絹代さん
＜写真提供:朝日新聞社＞

期間:10月20日(日)～10月31日(木)
(初日は13:30～ オープニングセレモニー、トークイベント)
場所:追悼平和祈念館 交流ラウンジ(地下2階)

10月の被爆者健康講話

～被爆者以外の方も参加できます～

追悼平和祈念館では「被ばく医療協力事業」の一環として、長崎大学原爆後障害医療研究所の協力の下、平成20年度から「被爆者健康講話」を開催しています。10月の講話は以下のとおりです。

日時:10月17日(木) 14:00～15:00
場所:追悼平和祈念館 交流ラウンジ
テーマ:「感染しない、させない、予防する」
講師:長崎大学医歯薬学総合研究科
災害・被ばく医療科学共同専攻
升水みどりさん
※入場無料、事前予約不要

株式会社「ひろたか」様 継続的なご寄附

ギフトとおみやげの「ひろたか」様(長崎市)より当協会にご寄附をいただきました。

被爆2世でもある廣高信彦社長が、お母様が亡くなられたことをきっかけに「平和のために貢献したい」と、自社のみやげ部門で販売している「折り鶴」をモチーフにしたオリジナルTシャツの売上金の一部を寄附することにされたということです。

平和推進活動を継続的に支えていただく取り組みに深く感謝します。



廣高社長(左)から中川事務局長(右)へ

世界の現役核弾頭の数 (今回より「全保有核弾頭数」から「現役核弾頭数」表示に変更)

	ロシア	米国	中国	フランス	英国	パキスタン	インド	イスラエル	北朝鮮	合計
2024年6月1日	4,380	3,708	500	290	225	170	170	90	50	9,583

情報提供:長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

寄附者紹介

ありがとうございます

◎(株)ひろたか

(敬称略) 三万円

◎浜本 雅

三万円

◎小川 貴尋

一万円

◎山中 弘幸

一万円

◎リベリアル

九千円

◎東 一夫

五千円

◎イシワタケイ

五千円

◎白鳥 純子

四、三二二円

◎竹下 淳也

千円

◎相澤 美智子

千円

◎匿名(5件)

五万九千円

皆様から寄せられたご寄附は、平和推進事業の貴重な財源として活用させていただきます。また、香典返しや退職祝返しをご寄附いただけますと、挨拶状(礼状)封筒をご用意いたします。ぜひ当協会にご寄附をお寄せください。

会員数報告

◎維持会員

1,097名

◎賛助会員

181名

◎学生会員

81名

賛助会員(団体法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援ご協力誠にありがとうございます。会員拡大にもご協力をお願いいたします。

会費納入のお願い

今年度まだ会費を納めていただけていない方は、活動の趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により納入くださいますようお願いいたします。